



▲写真 YB-001
 日本一のヤマボウシ
 中屋敷家のヤマボウシ
 1mで3分岐する樹形。
 (写真・Web画像)



▲写真 YB-002 日本一見事なヤマボウシ
まやさんてんじょうじ
 摩耶山天上寺のヤマボウシ
 枝張り11mに及び、見事に花を付ける。(写真・Web画像)



◀▼写真 YB-003
 南郷のヤマボウシ
 下写真・花期全景(写真・Web画像)



写真 YB-004▶
はちじょうざん
 蜂城山のヤマボウシ
 蜂城天神社参道から45分登った中腹に立つ。



34, ツツジ科の巨木 Ericaceae

■ツツジ科の巨木は以下に分類する。

- A ヤマトツツジの巨木
- B キリシマの巨木
- C ミツバツツジの巨木
- D シャクナゲの巨木
- E アセビの巨木
- F サラサドウダンの巨木
- G ドウダンツツジの巨木

34-A ヤマトツツジ(山躑躅)の巨木

ツツジ科ツツジ属
Rhododendron kaempferi

※ヤマトツツジの巨木の報告例は少ない。



▲写真 YT-001 日本一のヤマツツジ A 評価

勾当内侍 遺愛のツツジ

株周 M4.82m(0.1m 2015) 樹高 5.0m 主幹 M0.45m(0.3m)
群馬県館林市花山町 つつじが岡公園 (国指定)

勾当内侍は新田義貞の愛妻で、建武元年に植えられたという。これが根拠で樹齢 800 年という事になっている。第三代館林城主榊原忠次が 1627 年(寛永 4)に領内新田郷武蔵島村の花見塚からこの地に移植した。根元を観察すると、18 本からなる株立ちで、その内 2 本が切断されている。幹の状態から、樹齢 200~300 年程と見え、ひこばえが次々と発芽して今日に生延びてきたと推察され、初代はすでに枯れていると思われる。

34-B キリシマ(霧島)の巨木 ツツジ科ツツジ属 Rhododendron obtusum

※古くから、花が小さく密生する事から好まれて栽培されている。原種は鹿児島県のサタツツジといわれ、霧島山にも極めて近い種がある。各地で品種が作られ、巨木が多い事では、石川県の「のとキリツマツツジ」が有名である。

■キリシマの巨木評価基準

- A 株周おおむね 1m 以上で根元が詰まった樹形、主幹おおむね 0.5m 以上、もしくは銘木のキリシマの巨木。
- B 株周おおむね 0.5~1m で、主幹おおむね 0.3m 以上のキリシマの巨木。
- C B 評価以下のキリシマの巨木。

■主なキリシマの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物指定
A	大谷ののとキリシマツツジ 写真 KT-001	株周 M1.2m(0.2m 2015)	3.5m	石川県珠洲市大谷 57 池上家	県
B	〃 B 株 写真 KT-002	株周 M1.0m(0.2m 2015)	3.5m	〃	県
B	名楽寺ののとキリシマツツジ 写真 KT-003	株周 M1.5m(0.2m 2010)	3.5m	石川県鳳珠郡穴水町乙ヶ崎	なし
A	蓑キリシマ 写真 KT-004	主幹 M0.68m(0.2 2015)	2.5m	群馬県館林市花山町 つつじが丘公園	国
半壊	山下家のキリシマツツジ 写真 KT-005	株周 0.8m(0.2m 2009)	3.5m	福岡県	なし
C	大杉のキリシマツツジ(最大株) 写真 KT-006	株周 0.6m(0.2m 2005)	3m	石川県小松市上大杉町	市



◀写真 KT-002

大谷ののとキリシマツツジ(B 株)

8 本の株立ち。池上家の裏庭園の斜面上部にある。(右写真全景の左株。右株が大きく、A 評価・次頁掲載)





◀写真 KT-001 日本一のキリシマ

おおたに
大谷ののとキリシマツツジ

キリシマの地域品種「のとキリシマツツジ」の巨木は、能登半島一帯の民家等で、江戸時代から脈々と育てられてきた。数多くある巨木の中の最大株が本樹である。庭の斜面に二株あり、下が大きく、9本の株立ちからなる。花期の花姿は赤く燃えるようで、実に見事である。幹の雰囲気から樹齢は300年を下らないと推察される。(全景前右)



▲写真 KT-003

名楽寺ののとキリシマツツジ

16本の株立ちからなる。



◀写真 KT-004

みのきりしま
蓑霧島

4本の株立ちで、樹齢650年という古木。花の形が蓑形になり、薄く明るい紅色。



◀写真 KT-005

半壊・山下家のキリシマツツジ

最大幹周0.38mで、13本の株立ち樹形であったが、2008年の長雨により、主幹2本が切断された。



◀写真 KT-006

大杉のキリシマツツジ

3株の内最大株。樹高3mで、3本の境がないくらい花が付いていたが、近年衰弱している。

34-C

ミツバツツジ(三葉躑躅)の巨木

ツツジ科ツツジ属



◀写真 MT-001 日本一のミツバツツジ

A 評価

いのがしら
猪之頭のミツバツツジ

株周 1.7m(0.2m 2010) 樹高 4.5m

静岡県富士宮市猪之頭

根元で7分岐し、主幹 M0.6m。枝張

6.7×7.3m。



▲写真 MT-002

石神家のミツバツツジ

株周不明 樹高不明(写真・伊那毎日新聞)

34-D

シャクナゲ(石南花)の巨木

ツツジ科ツツジ属

※ホンシャクナゲ、ツクシシャクナゲの巨木報告があるが、葉裏面の毛の色等で識別するため、巨木学では分類しないで、シャクナゲの巨木とする。

■シャクナゲの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 1.5m 以上の単幹樹、同等評価のシャクナゲの巨木。
- B 幹周おおむね 0.7~1.5m の単幹樹、同等評価のシャクナゲの巨木。
- C B 評価以下のシャクナゲの巨木。

■主なシャクナゲの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	津志嶽のシャクナゲ 写真 SG-001	M1.82m(分岐 0.2m 2010)	8.0m	徳島県美馬郡つるぎ町一宇 津志嶽	町
B	志路原のシャクナゲ 写真 SG-002	1.2m	3.0m	広島県山県郡北広島町志路原	なし
B	高野寺のシャクナゲ 写真 SG-003	0.7m	5.4m	佐賀県武雄市北方町字志久 3245	なし
B	志気の大シャクナゲ 写真 SG-004	枝張り 5m	5.0m	佐賀県唐津市北波多志気	なし
B	金剛三昧院の大石楠花 写真 SG-005	不明	10m	和歌山県伊都郡高野町 高野山 425	県
C	弁財天シャクナゲ 写真 SG-006	枝張り 6.5m	6.0m	佐賀県神埼市脊振町服巻 950 浄徳寺	なし
C	月輪寺のシャクナゲ 写真 SG-007	0.46m	4.0m	京都府京都市左京区嵯峨清滝月輪 17	市



◀写真 SG-001 日本一のシャクナゲ
つしだけ
津志嶽のシャクナゲ

津志嶽の標高 1200~1300m の尾根の三カ所に群生地があり、幹周 50~90cm のホンシャクナゲが 272 本確認されている。標高 1300m の尾根道分岐近くにあるシャクナゲは、津志嶽で最も大きく、根元上部で 2 分岐し、それぞれの幹周が 0.7m と 0.68m、樹高 8m という巨大なものである。その下の山道をくぐると、まるでシャクナゲの大門である。(下写真)



◀写真 SG-002
しじはら
志路原のシャクナゲ

出羽家所有のツクシシャクナゲの巨木である。
(写真・Web 画像)

写真 SG-003▶

高野寺のシャクナゲ

樹齢 300 年というツクシシャクナゲ。
(写真・Web 画像)





▲写真 SG-004

志気の大シャクナゲ

寛政年間に、川添家の祖先が家老から褒美として与えられたツクシシャクナゲを植えたもの。樹齢200年以上。(写真・Web画像)



▲写真 SG-005

金剛三昧院の大石楠花

当院の信者が寄進したもので、最古の株は樹齢450年以上で、複数株が山斜面を覆うように茂る。ホンシャクナゲである。(写真・Web画像)



▲写真 SG-006

弁財天シャクナゲ

樹齢400年というツクシシャクナゲの巨木。(写真・Web画像)



▲写真 SG-007

月輪寺のシャクナゲ

数本の寄植えて、全体の枝張りは10×8m。ホンシャクナゲの巨木である。(写真・Web画像)

34-E

アセビ(馬酔木)の巨木

ツツジ科アセビ属
Pieris japonica

※アセビの巨木は、全く調査が進んでいないため、本書では情報を記載するに留める。



◀天城山のアセビ
静岡県伊豆市
(写真・Web画像)



▲猫越岳のアセビ
静岡県伊豆市(写真・Web画像)



▲天城八丁池のアセビ
静岡県伊豆市(写真・Web画像)



◀犬伏山のアセビ
広島県安芸高田市
(写真・Web画像)



◀能登ヶ峰のアセビ
滋賀県甲賀市(写真・Web画像)

34-F サラサドウダン(更紗灯台)の巨木

ツツジ科ドウダンツツジ属
Enkianthus campanulatus

※サラサドウダンの巨木は、天然の巨木が多数あると考えられるが、正確な情報がほとんどない。そのため、今後の調査に期待する。そのため、本書では評価基準を見送る。

■主なサラサドウダンの巨木

2015年現在

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
	比良林のサラサドウダン 写真 SD-001	株周 4.0m	3.7m	福島県南会津郡只見町大字大倉字余名	県
	六甲高山植物園のサラサドウダン 写真 SD-002	不明	不明	兵庫県神戸市灘区六甲山町	なし
	百万ドルのドウダン 写真 SD-003	不明	不明	山形県村山市 葉山尾根	なし



▲写真 SD-001

比良林のサラサドウダン

根元で数本の分岐幹に別れ、枝張りは東西8.5m、南北10mにも及ぶ。(写真・Web画像)



▲写真 SD-002

六甲高山植物園のサラサドウダン

(写真・Web画像)



▲写真 SD-003

百万ドルのドウダン

(写真・Web画像)

34-G ドウダンツツジ(灯台躰燭)の巨木

ツツジ科ドウダンツツジ属
Enkianthus perulatus

■主なドウダンツツジの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	妙法寺のドウダンツツジ 写真 DT-001	株周 M1.59m(0.05 2011)	4m	石川県金沢市寺町 4-26	市
A	願行寺のドウダンツツジ 写真 DT-002	M1.0m(分岐 0.2m 2010)	5m	三重県三重郡菰野町竹成	なし
B	宮本家のドウダンツツジ 写真 DT-003	M0.75m(分岐 0.2m 2015)	3m	石川県鳳珠郡能登町笹川	なし
B	寺島藏人邸跡のドウダンツツジ 写真 DT-004	M0.9m(分岐 0.2m 2016)	4m	石川県金沢市大手町 10-3	なし
C	正圓寺のドウダンツツジ	不明(数本の株立ち)	不明	埼玉県さいたま市中央区本町西 4-3-15	市
枯死	小松天満宮のドウダンツツジ 写真 DT-005	株周 1.2m(0.2m 1985)	4m	石川県小松市天神町 1	



◀写真 DT-001 日本一のドウダンツツジ

妙法寺のドウダンツツジ

ドウダンツツジの巨木は石川県に多く、加賀藩前田家の影響ではないかと思われる。その中でも群を抜いて大きなドウダンツツジが、この金沢市寺町「妙法寺のドウダンツツジ」である。寝るように立上がり、根元近くで4分岐する樹形。株周はM1.59m(0.05m)で、分岐した幹は、0.49m、0.82m、0.74m、0.57mある。ドウダンツツジとしては桁違いの巨木である。樹高4m、枝張り東西7m、南北4.5mに広がる。

妙法寺が移転した時(1615年)、庭に移植されたという。この時すでに樹齢100年以上であったと推察され、樹齢500年以上になり、幹周から比較して納得できるものだろう。ドウダンツツジは見た目以上の樹齢がある。妙法寺は日蓮宗の寺院で、前田家ゆかりの家臣を供養するために天正元年(1573)に建立された。建立寺に植えられたものか。



◀写真 DT-002

願行寺のドウダンツツジ

本堂と庫裏の間の狭い庭に立ち、見事な主幹から4分岐する樹形。分岐幹の幹周は46、48、60、52cmである。寺の建立が500年以前で、その頃に植樹されたものか。



◀写真 DT-003

宮本家のドウダンツツジ

根元上部で2分岐する樹形。



◀写真 DT-004

寺島蔵人氏跡のドウダンツツジ

庭に10本程のドウダンツツジがあり、大きいものが3本。その中の最大株。他は、M1.02m(分岐0.2m 2016) 主幹は伐採、3分岐。株周M0.8m(0.1m 2016)で3本の株立ち。四国より移植との伝承がある。



◀写真 DT-005

枯死・小松天満宮のドウダンツツジ

根元近くで3分岐する樹形。2011年頃枯死。撮影1982年。



34-H ネジキ(楨木)の巨木

ツツジ科ネジキ属

Lyonia ovalifolia var. *elliptica*

写真 NG-001 日本一のネジキ▶

奥大野のネジキ

株周 M3.61m(0.2m 2009)

樹高 8m A 評価

徳島県美馬郡つるぎ町一字奥大野

標高 1040mの尾根にある。